

令和5年度島根大学大学院

教育学研究科入試問題（Ⅱ期）

《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

小論文

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙2枚，解答用紙2枚，下書き用紙2枚である。

指示があってから確認し，解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。

- 3 解答は，解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は，持ち帰ること。

受験番号

《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

小論文 問題

「小学校プログラミング教育の手引」（文部科学省(2020)、以下、手引）に関する以下の2つの問題文を読み、次の問いに答えよ。

<問題文1>

手引には、以下の記述がある。

小学校におけるプログラミング教育のねらいは、非常に大まかに言えば、①「プログラミング的思考」を育むこと、②プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと、③各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、各教科等での学びをより確実なものとするための三つとすることができます。プログラミングに取り組むことを通じて、児童がおのずとプログラミング言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりするといったことは考えられますが、それ自体をねらいとしているのではない

一方で、

各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、プログラミングを学習活動に取り入れることで、各教科等の学びも充実していくことが期待されます。このためには、学習指導要領に示すとおり、児童がプログラミングを「体験」し、自らが意図する動きを実現するために試行錯誤することが極めて重要となります。

とも書かれている。ねらいである「①「プログラミング的思考」を育むこと」を達成するために最も合理的なのが「プログラミングを体験」することであることを考慮すると、実質的には、コンピュータ等を活用しながら行う学習が学校での教育活動に求められていると解釈できる。

<問題文2>

さらに、手引には、「情報活用能力」に関する以下の記述がある。

「プログラミング的思考」の育成を考える際、「情報活用能力」との関係を確認しておくことが重要です。新しい学習指導要領において、情報活用能力は、「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、「教科等横断的な視点から教育課程の編成を図り育成することとしています。そして、学習指導要領解説総則編においては、「情報活用能力」は、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて、情報を得たり、整理・比較したり、発信・伝達したり、保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動に必要な情報手段の基本的な操作技能や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ等に関する資質・能力も含むものとしています。

問1 問題文1を踏まえて、プログラミング教育を導入するために、担当教員レベル、リーダーレベル、管理者レベルで求められる事項や課題をそれぞれ挙げ、その達成・解決のためにはどのような方策が考えられるか700字以内で論ぜよ。自身に関連する校種について論じても良い。ただし、自らの経験を交えても良いが、特定の事項に偏ることのないよう配慮すること。

問2 問題文2を踏まえて、「情報活用能力」を育むために、「コンピュータ等の情報手段」を学校内で適切に活用するには、環境整備が重要である。ユーザビリティ*の高い環境を用意することで、教育目標が効率良く達成できるだけでなく、教員の業務効率化にも資することが期待される。環境整備には、どのような項目があり、どのようなことに配慮が必要であるか300字以内で論ぜよ。

ユーザビリティ* … 使いやすさ。特定のユーザが特定の利用状況において、システム、製品又はサービスを利用する際に、効果、効率及び満足を伴って特定の目標を達成する度合い。例えば、「あなた」が「与えられた端末や装置」を使って、「やりたいことが効率良く（素早く簡単に）できる」かどうか、「また使いたい」と思えるかどうか、その度合いを意味する。